

**発達上の課題を有する児童へ
の効果的な支援について
実践事例**

東近江市立八日市北小学校

2009.7.31

当番活動がうまくできない

考えられる要因

- ・手順がよく分からない
- ・自分の役割分担がよく分からず、スムーズに動けない

☆子どもの実態

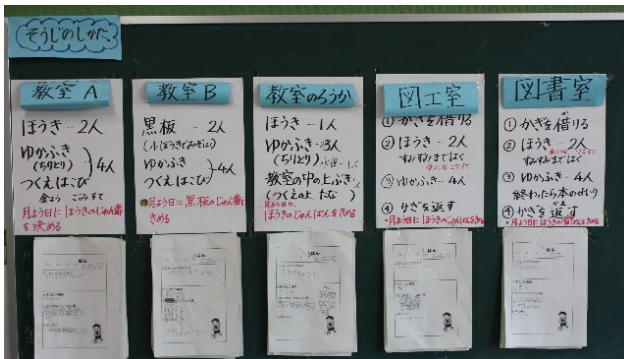
- ・給食や掃除の時間、うろうろしてきちんと仕事できない。
- ・朝の会、帰りの会の進行がスムーズにできない。

☆目標

- ・自分の役割分担が分かり、きちんと当番活動ができる。

使った支援①

掃除の仕事について



各掃除場所毎に、掃除の仕方を明示して仕事内容がよく分かるようにしている。

掃除ロッカーのドアに収納の見本写真を貼り、ほうき、ちりとり等の収め方が一目で分かるようにしている。



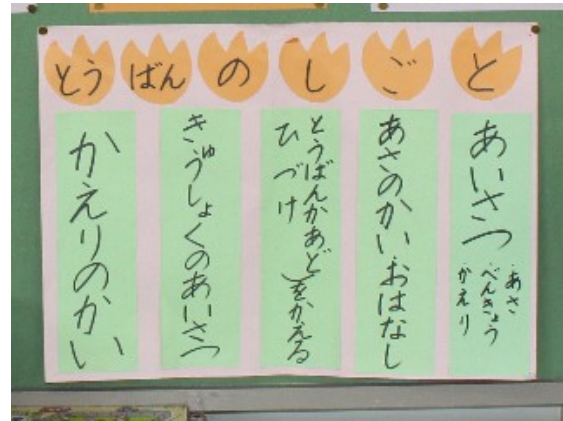
どこから、どの方向にぞうきんがけするかをラインテープで指示
(特別支援学級)

子どもがこんなふうになった

☆ロッカーにすっきり収めるようになった。
☆一生懸命掃除する姿が見られるようになった

使った支援②

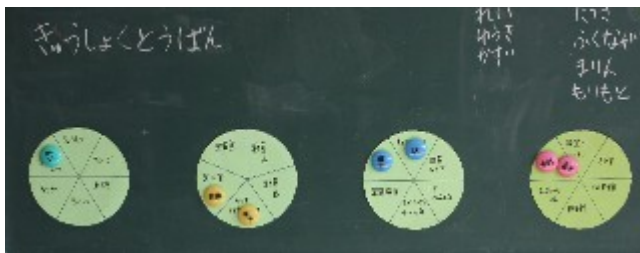
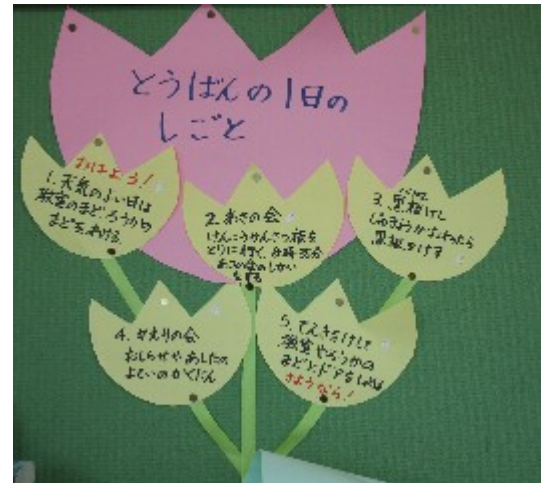
当番活動について



給食当番で何をするのかを明示



図を入れることで、する仕事がより具体的に分かる。



名前のマグネットを担当のところに貼る。一目で今週は何の仕事をするのかが分かる。



当番のする仕事がよく分かるように掲示しておく

ワンポイントアドバイス

☆動けない子には教師から声かけをしよう。それでも困っていたら一緒にしてあげましょう。そして、できたらほめてあげよう。

持ち物の整理ができない

考えられる要因



整理の仕方が分からないのと、乱雑なままの状態に慣れてしまって、整理する意識も弱いのではないだろうか。

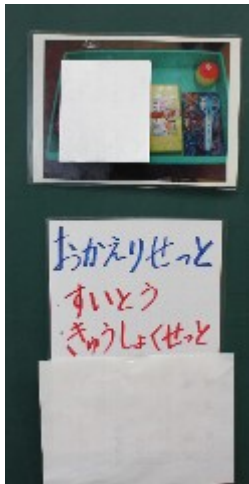
☆子どもの実態

・机のまわりにノートや鉛筆など持ち物が散乱していて、教師が片付けてもすぐまた同じような状態になってしまう。

☆目標

・片付け方が分かり、自分で片付けようとする意識を持つ。

使った支援①



見本を示す

机の中の物の置き方、かばんや粘土などの収め方を写真で示すことにより、けっこう自分たちで整理整頓ができるようになっている。(1年)



どうしてもうまく片付けられず、机の回りに散乱してしまう子には、机の横にカゴを置いてやった。それまで机のまわりに散乱していた持ち物をこのかごに入れるようになり、少し改善できた。

使った支援②

教室環境の整備



名札フォルダ



算数ブロックを斑ごとに置く

提出場所を明示し、子どもが提出しやすく、また、自分のものを取りに行くときもわかりやすい教室環境にする。

ワンポイントアドバイス

- まず、教師が代わりにやってみせ、やりかたを教えましょう。
定着するまでは、教師も手伝って見本を繰り返し示すようにしましょう。
また、子どもと話し合い、約束や目標を決めていっしょに取り組んでいきましょう。
その後、一人でできるように少しずつ手伝いをやめていくようにします。
- 子どもの机の引き出しは毎週金曜日、全部机の上に出させて点検しましょう。いる物は戻させ、いらぬものは捨てさせ、すっきりさせて一週間を終わらしましょう。
- 計算カード、クレヨン、笛、上靴袋、使わない本などは提出場所を決め、教師の方で保管し、子どもの持ち物を少なくしましょう。

次に何をするのかわからない

考えられる要因

- ・その時間に何をするのか、どこまでするのか見通しが持てないので、とちゅうでいやになってしまう。

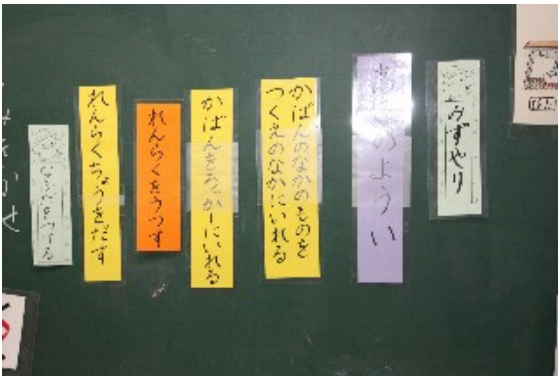
☆子どもの実態

- ・最初は、授業に参加しているのだが、とちゅうから、ぼんやり、あるいは違うことに気持ちが行ってしまい、ふらっと教室を出てしまったりする。

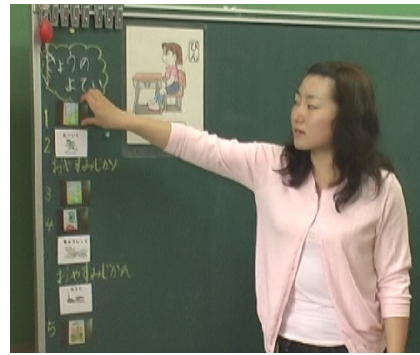
☆目標

- ・1時間の学習の見通しを持たせ、最後まで学習に参加できる。

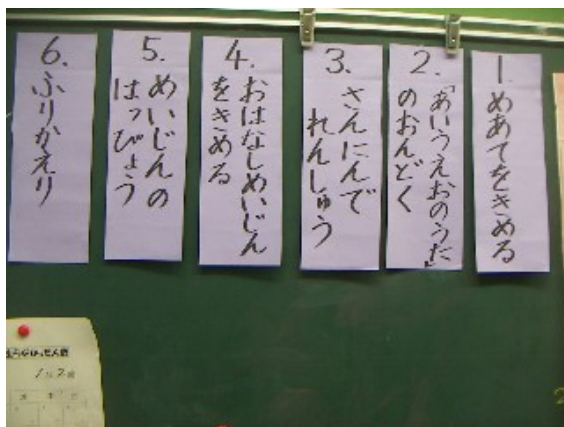
使った支援①



朝登校してきたらすることをカードで明示。1年生の子どもたちの動きはとてもスムーズである。



1日のスケジュールを明示し、朝の会で説明しておくこと、比較的すごぎがスムーズになる。



1時間の授業の流れを最初にカードを使って明示しておく。

子どもたちは授業の行き着き先が見えることで、学習に参加しやすくなる。また、集中を持続させやすくなる。



1年生が、初めてプールに入る日。
プールへ行ってすることを板書し、プールの写真を見せながら、説明した。

ワンポイントアドバイス

☆終わった活動のカードは外していくと、今どこの学習なのかより意識できるようになります。

☆国語の文字指導、算数の計算指導のパターンを同じにすると子どもたちは、見通しが持ちやすくなります。

興味関心がそれやすい

考えられる要因

→
・刺激に弱く、周囲の刺激に過敏に反応してしまう。

☆子どもの実態

・授業が始まってしばらくすると、手慰みしたり、窓の外を見たりと授業から離れてしまう。
おもしろくないと思うと、席を離れて立ち歩いたり、教室から出て行ってしまったりする。

☆目標

・できるだけ刺激の少ない学習環境を保ち、子どもの興味関心を高める工夫をしながら、学習に集中できるようにする。

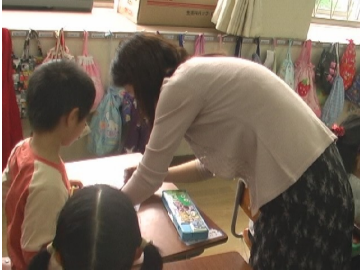
使った支援①

刺激の少ない教室環境



黒板の周囲をすっきりさせることで、不要な刺激をなくす。

使った支援②



子どもは動かず、教師が動く

文字練習のプリントをさせて、「できた子は前に持ってきなさい。」と言って教師がチェックする。ずらっと子どもたちが並んで待っている。一年の教室でよく見かける光景。

『静かに並んで待つこと』を学ばせるのも大切かもしれないが、今の時期は『子どもの学び』をむしろ優先したい。

子どもたちが動くと、教室がざわつく。集中の弱い子はそちらに目が行ってしまったり、例えば前に出て行く子どもが机に触れてトラブルになったりする。いつまでたっても仕上がらずにぼんやりしたままになっていることも多い。

私は、子どもは座らせておいて、自分が子どもの机を回って、一人一人、できたところまでを〇してやる、というふうにしてきた。そうすれば静かな状態が維持できる。それに、集中が弱い子ども、タイムリーにチェックしてやることで「よし、次もやろう」という意欲が生まれる。



「友だちどうしのおしゃべりは1の声で」

「今は『おロチャック』ということを指導し、騒がしくない教室環境を意識させる。

座席の位置

座席は一番前より

一番後ろが落ち着く

WS君は集中が切れやすい子なので一番前の席にしておいたが、常に後ろが気になるようで、すぐ後ろを見てじっとしていられなかった。

それで、逆に一番後ろの端の席にしたら、すっかり静かになった。



子どもたちの集中が切れかけたとき、指示を出す前に「びん・ぴた・ぐー」(背筋びん、かかとを床にぴたっ、机とおなかににぎりこぶし一つ分あけて座る)の合い言葉を言わせて切り替えをはかる。

ワンポイントアドバイス

☆「静かな環境」が子どもの落ち着きにつながります。ずっと静かになったとき、「静かだと気持ちいいね。」と子どもにも静かな環境の維持を意識させましょう。

③制限時間の効用

○「10数える間に書けるかな？」

黒板に書いた漢字を書かせるのに、「10数える間に書けるかな？いくよ、1.2……」と数えると、どの子も夢中で時間内に書こうとする。

使った支援③

子どもの興味関心を持続させること



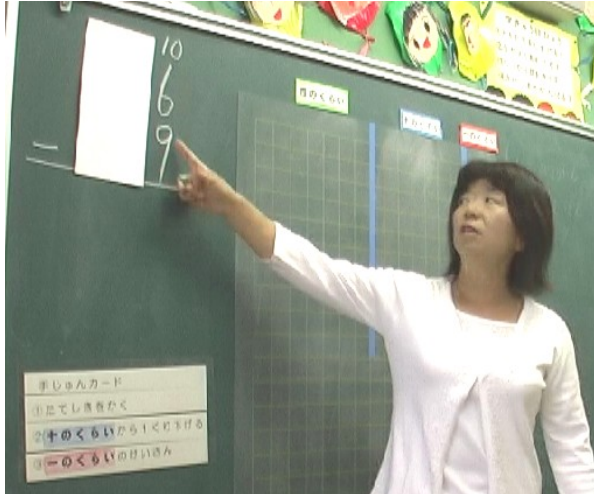
学習指導の中で個別指導しているシーン。前に箱が置いてあり、子どもたちは左から順番に移っていく。これは養護学校で自閉症の子どもたちに対してよくやられる「ワークステーション」という学習形態です。自分ひとりで課題をやって、課題が終わったらここに置いて、また次の課題をやっていく。あの場面で、左から右に矢印がしてあったり、箱に大きな字で「1番」「2番」……とつけるだけで、かなりの子が自分たちだけでどんどんやっていける。その分担任の手が空くので、個別に関わってやることのできる。ワークステーション的な活動を更に発展させてもらえれば、また新しい学習形態ができるのではないかな。

(堀居指導主事 2008.9.29)



ワンポイントアドバイス

○一枚のプリントの問題の量は少なめに。「かんたんにできた」と思えることが次への意欲につながります。解答も貼っておいて自分で採点できるようにしておくと、教師の体が空き、個別指導に回れます。



隠すというのは頭の中の作業を軽減してやるということ。

目にはいろんな情報が入ってくる。それを頭の中
 でいるものといらないものを選別する作業を行う。その
 選別作業をしながら、同時に教師の話を注目して
 聞くという二つの作業を同時に行わねばならない。
 その片方をなくしてやることで、頭の中の作業が単
 純になるということだ。

耳からの入力を受動的なのに対して目からの情報
 は能動的だ。見たくなければ目をつぶればよい。子
 どもが視覚情報に目を向けているということは意識
 レベルも耳からの情報よりも高い。だから比較的入り
 やすい。入りやすい代わりにいらぬ情報も入りやす
 い。そういう意味で隠すというのは非常に有効な方
 法だ。

一の位の筆算に注目させるために、他の部分を
 紙で隠す。

こういう手法は従来から学習障害の子どもの指導
 法としてあった。本の上に紙をかぶせて小さな窓を
 開けて、他の文字を隠して読むべきところだけに注
 目させる。その黒板での方法と言える。

(堀居指導主事 2008.9.29)

体をとおして学ばせる



くっつきぼうで「は」と「わ」を学ぶ



物語文の筋をつかませるために劇化し
 てみる。

ワンポイントアドバイス

☆行動的な学習では、やることははっきり子どもたちに見えていることが大切です。

忘れ物が多い

考えられる要因



「不注意」とともに、家庭の協力が得られないことも、忘れ物が減らない要因である。

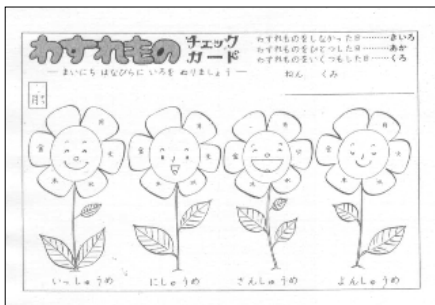
☆子どもの実態

・常習的に忘れ物があり、「忘れ物をして
も、何とかなるだろう」と、改善しようとす
る意識が乏しい。

☆目標

「忘れ物を減らそう」と自分で意識できるよ
うになる

使った支援①



○「わすれものチェックカード」を渡し、1週間
ごとにチェック。忘れ物が無ければ「わすれも
のゼロ賞」（シール）を渡して励ます

ワンポイントアドバイス

○チェック表を用意し、よく忘れる子には声かけを忘れずしましょう。家庭にも、忘れ物がないか声かけの協力をお願いしましょう。

みんなにあわせて行動できない

考えられる要因

- ・自分のやりたいことが優先して切り替えが効かない。

☆子どもの実態

- ・帰りの会で帰り支度を指示しても、さっと動けず、全員が揃うまで時間がかかる。）
- ・グループなどで話し合い活動を指示しても、なかなか動き出せず、時間ばかりかかってしまう。

☆目標

- ・さっと行動に移っててきばきと進めることができる。

使った支援①



砂時計の利用

「さあ、これから帰る用意を1分でするよ。よーい、始め！」の合図で砂時計を逆さまに置く。子どもたちは、ゲーム感覚でさっと帰る用意を完了してしまう。自分の世界に入ってみんなの動きに合わせられない子ども、まわりのみんなの動きを見て、自然に動けるようになる。

- ・「いくつ数えるうちにできるかな？」と用意できるまで数を数える。

ワンポイントアドバイス

☆「時間が見える」ようにすることで、時間を意識して行動させましょう。

興奮しやすい

考えられる要因



- ・まだ感情のコントロールができない。

☆子どもの実態

・小さいことで、トラブルになり、一旦「怒り」のスイッチが入ってしまうと、感情が暴走し、自分でも止められなくなってしまう。

☆目標

- ・怒りの感情をがまんできるようにする。

使った支援①

- ・小さい声で話す練習
- ・おこりそうになったら、すぐそばに行き、どうしてほしいのか、小さい声で言う練習をさせ、小さい声で言ったことはかなえるようにした
- ・おこりたいのによくがまんしたねと、大声を出さなかったことをほめる。
- トラブルになる子を離す。
座席がポイント(気になる子は教師の近くの席に置く)
- 話を聞いて落ち着かせる
- 思いを聞く。興奮したら先生と話すという約束をする。
- 腹がたったときの正しい行動パターンを身につけさせる。
- 人と物に当たって傷つけてはいけないということは「これはルールです。」と言ってとして徹底する。

ワンポイントアドバイス

☆不要な刺激を与えない環境にすることが大切です。
☆その子の思いも十分受け止めましょう。その子との心のパイプがつながると教師の言葉も少しずつ入るようになります。

自分の思いを言葉で伝えられない

考えられる要因



対人不安感が非常に強い場合。
あるいは、興奮している場合など。

☆子どもの実態

・教師のところへ来て、何か言いたそうなのに、教師が「どうしたの？」と尋ねても黙ったままにいる。
・トラブルが起きたとき、訳を聞こうとしても黙ってしまう。

☆目標

自分なりの意思表示の仕方ができるようになる。

使った支援①

- いくつかの言葉を示して、近いのを選ばせる。
- 「～と同じで」というような言い方でいいので、発言する機会を与える
- 心のノートに書かせる。そのことを伝えたりする。
- 時間をおいてからもう一度聞く。

ワンポイントアドバイス

☆時にはその子の背中を押してやるような強い働きかけも効果的な場合があります。

人をさえぎって話す

考えられる要因



自分の思いが優先し、まわりの者への意識が弱い。

☆子どもの実態

教師の話の途中で質問したり、誰かと話しているところへ割り込んで話しかけてきたりする。

☆目標

まわりの状況を見て、適切な話し方ができる。

使った支援①



「今は、先生のお話を聞いてね」とカードを見せて指示する。



○タイマーで先生が話す時間を教える。
タイマーが鳴るまでは一切話をしない。タイマーが鳴った、手をあげて質問するようにしている。

○「人が話している時はじゃましない」というルールを教える。

○目で合図、指で合図

ワンポイントアドバイス

☆「これはみんなが守らないといけないルールだよ」と「ルール」として分からせる方が、伝わりやすいです。

聞き違いや聞きもらしが多い

考えられる要因

- ・耳からの情報を受け取りにくい
- ・集団全体が落ち着かない状態だと一層集中できなくなる。

☆子どもの実態

ていねいな説明をしたすぐ後に「何するの？」と聞いてくる子がいる。

☆目標

話したことをきちんと聞き取る。

使った支援① 視覚情報を加えて話す



話を聞く姿勢、目線が合っているか、話の内容が理解できているかチェック。

話すリズム…短い言葉でテンポよくわかる言葉で。



指を二本出し、「二つお話します。」と話す。

子どもたちは、「先生はこれから二つの話をするんだな。二つ聞けばいいんだな、」見通しをもって、二つの話を聞く準備をする。

そのことで、集中がきれやすい子どもも聞く姿勢が続きやすくなる。

一斉の中で指示が入りにくい

考えられる要因

- ・耳からの情報を受け取りにくい
- ・集団全体が落ち着かない状態だと一層集中できなくなる。

☆子どもの実態

- ・集団全体に話をするのに、ざわついて話を聞く状態になれない。
- ・すぐに違うことに気が行ってしまい、話を終わりまで聞けない
- ・がまんできずに、自分の席から動いてしまう。

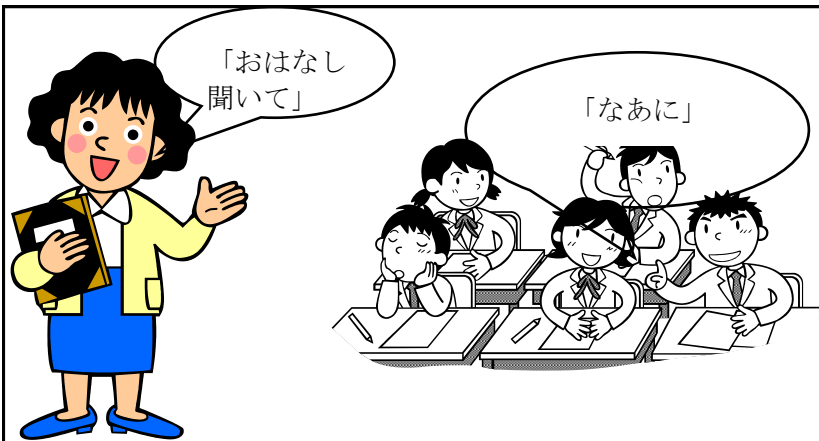
☆目標

- ・さっと聞く姿勢になることができる。
- ・最後まで話を聞くことができる
- ・まわりの子に明和幕をかけないよう、自分の席にがまんして座っていることができる。

使った支援①「聞く準備の姿勢を作る」

「お話聞いて」と教師が言えば「なあに」とみんなで答えるルールを作っておく。

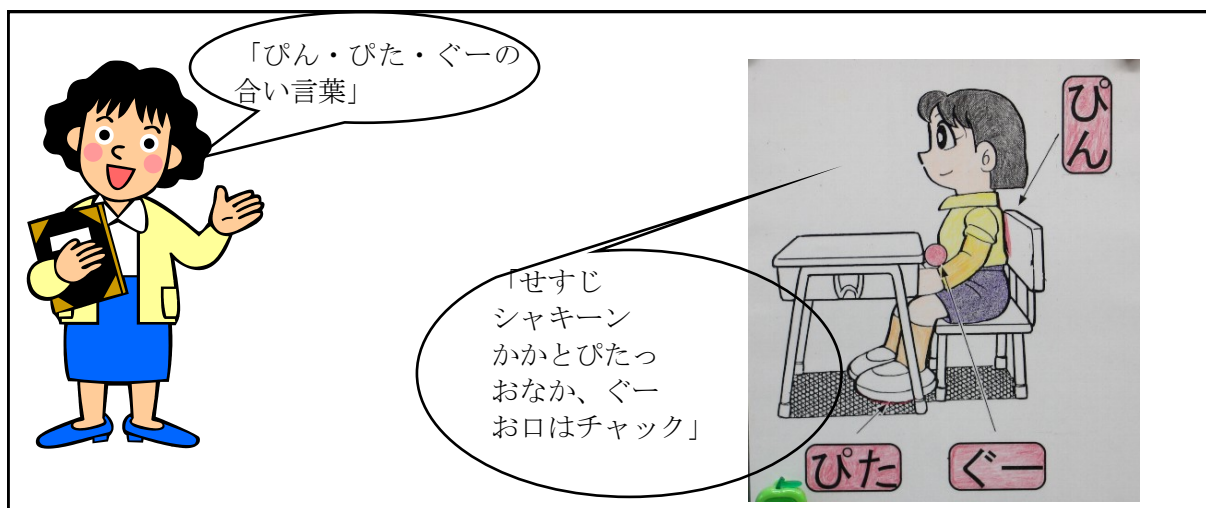
作業活動でざわついていても、「お話聞いて」と声をかけると「なあに」と答えることで全体の意識が教師に向かう。



「静かにできるかな？
3……2……



カウントダウン方式で、「静かにできるかな？ 3……2……1……シーツ」と指示。



子どもがこんなふうに変わった

☆何かの活動中であっても、全体がざわついていても、さっと聞く態勢が作れるようになった。

- 一斉での指示が入りにくい子には個別に指示したり、指示の内容を掲示する。
- やることがわからないときは、先生の机のところに来させ説明する。
- 近くに行って声をかける。
- 個別に対応
- 個別に指示したり、指示の内容を掲示する。

ワンポイントアドバイス

○教師の「声」はとても重要です。指示が入りにくいな、と思うときは、声のトーンを落としてみる、短く話すなど自分の声にも気をつけてみましょう。

文中の語句をぬかしたり、行をとばしたりする

考えられる要因

→ 追視が困難など、何らかの視覚的障害があると考えられる

☆子どもの実態

・音読のとき、つまってしまうことが多く、きちんと読み下すことができない。

☆目標

・読もうとする文字、文をしっかり見て読むことができるようにする。

使った支援①



一行だけ見えるカードをつくり、それを教科書に当てて、読んでいく。他の行の文字を隠し、視覚情報を絞ることで読みやすくなる。



一年生の音読練習の場面。親指と人差し指で分節ごとにさみながら読む練習をしている。視覚情報がうまく処理できないため、音読していてもとばし読みをしてしまう子には、こういう「はさみ読み」も有効な手だての一つになるのではないだろうか。

ワンポイントアドバイス

○「不要な情報は隠す」という視点で手だてを工夫しましょう。

板書が写せない

考えられる要因

→ 何らかの視覚的な障害あるいは集中の弱さのため、黒板を見て、ノートに書くということがスムーズにできない。

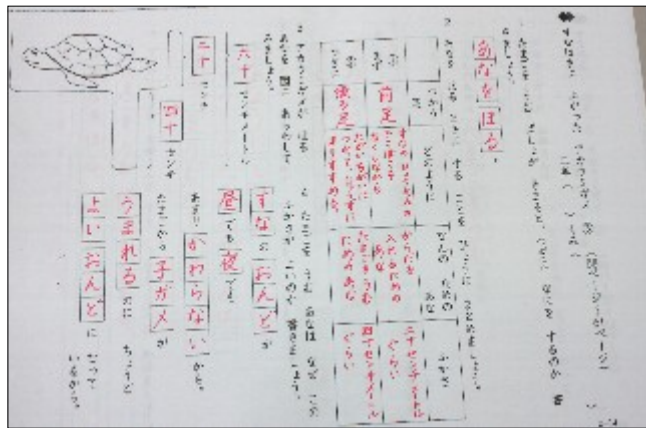
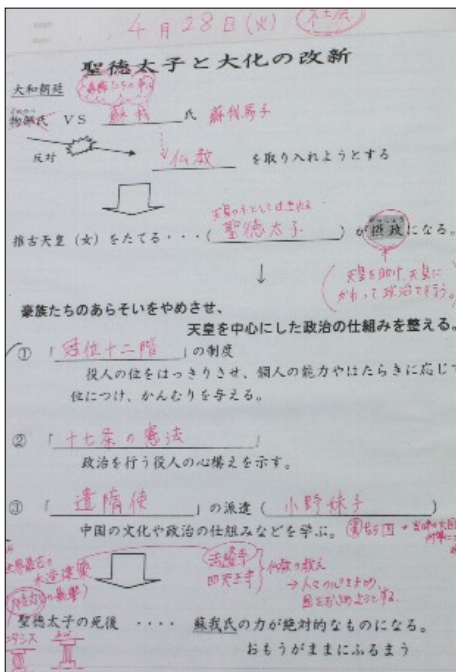
☆子どもの実態

・板書を一生懸命写しているうちに、授業がどんどん先へ進んでしまう。ノートにはきちんと書きたいという意識が強いので、どうしても授業とずれてしまう。

☆目標

・読もうとする文字、文をしっかりと見て読むことができるようにする。

使った支援①



6年N君の事例

黒板の板書と同じ内容だが、ポイントだけ空欄にしたプリントをN君に渡しておく。N君は、授業中、[]のところだけを書き込んでいく。そうすることで、授業の進行に遅れず、ついていくことができた。

1年J君の事例

黒板にはこのプリントの拡大コピーが貼ってあり、そこに書き込んでいく形で授業が進む。

一方、J君の机の上には全く同じで、しかも赤字で答を書き込んでいるプリントを置く。

J君は、そのプリントの赤字を見ながら自分のプリントに書き込んでいく。

授業が終わると、そのプリントは、子どもたちみんなが見えるところに貼っておく。そうすると、他の子どもも書いたことに自信がない子どもたちが見て確認している。

文字が正しく書けない

考えられる要因

→ 手・指を調整する力が弱く、思ったような線が書けない

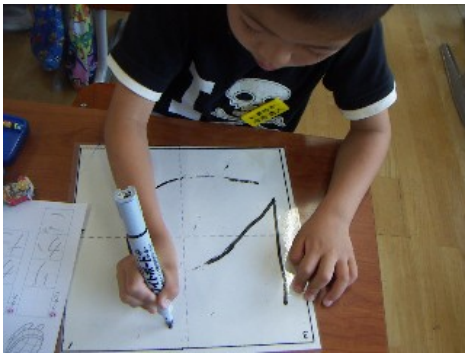
☆子どもの実態

- ・うまく書けないとかんしゃくをおこしてしまふ(A児)
- ・いっしょうけんめい書くのだが、うまく書けずやる気を失ってしまう。(B児)

☆目標

- ・うまく書けたという達成感を味わうことができる。

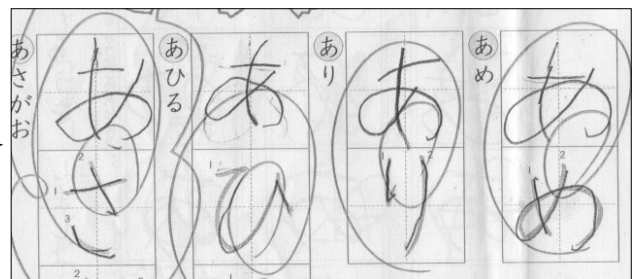
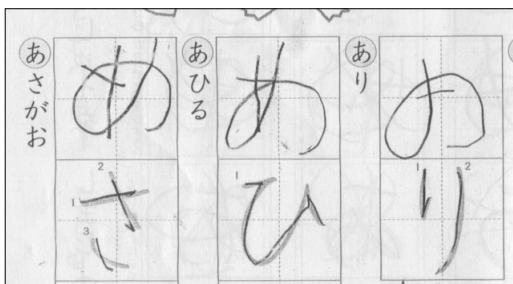
使った支援①



ミニホワイトボードとマーカーを使って文字練習。

- すべりがいいので、楽にかける。
- うまく書けなかったところだけ消して、書きたい形に修正できる。

子どもがこんなふうに変わった



ミニホワイトボードを使って練習したら、形の取れなかった「あ」の字がしっかり書けるようになった。

ワンポイントアドバイス

☆「自分でうまく書けたと思うのはどれ(どの部分)?」と、子ども自身に評価させてみるのも、学びの自覚につながります。

使った支援②



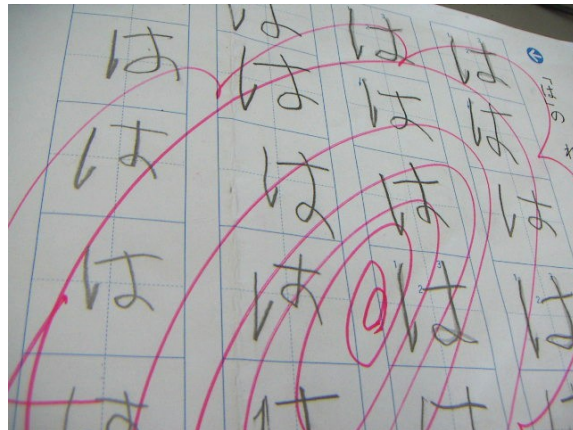
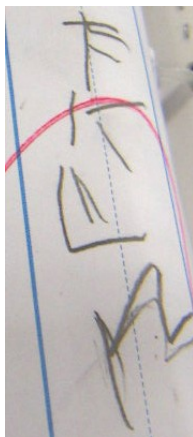
指先がうまく動かないので、思うように線が書けず、ひらがな練習がに苦労していた一年生のA君。

「鉛筆が細くて、しっかりとぎれないために困っているのでは？」

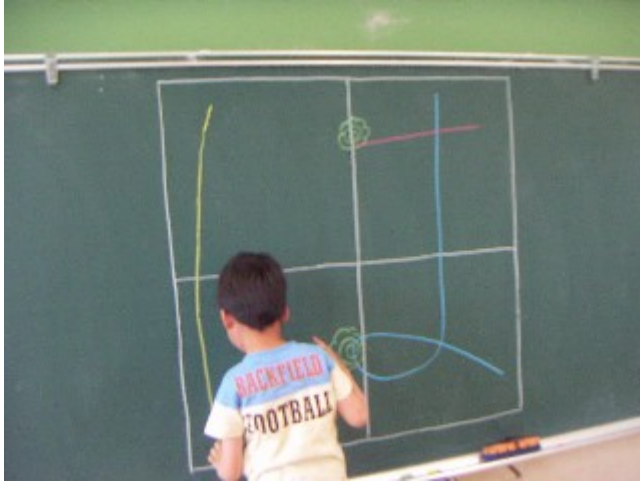
と気づいた担任が、写真のような樹脂製のグ

リップをつけた鉛筆を使わせてみたところ、「とても書きやすい」とA君は大喜びで、文字練習をがんばるようになった。

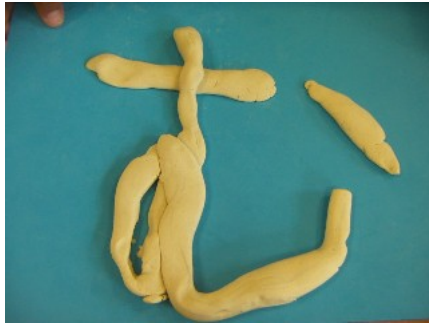
子どもがこんなふうに変わった



グリップなしの鉛筆で練習していたころの文字（左）
グリップをつけて練習するようになって、字がしっかり書けるようになっていった。



黒板いっぱいにもマスを書き、文字を大書することで、書くときのポイントが子どもたちに強く意識される。



形の取りにくい文字を粘土で作ってみることで、形が覚えやすくなる。粘土遊びをした後、ノートに書かせると、どの子も上手に書けた。

○リズムで書く

(例) さ……①よこぼう ②すべりだいシュー、ジャンプ ③ドスン

○楽しく学習をさせながら、とにかくたくさん文字を書かせる。ひらがなカタカナ一覧表は手元におかせ、困ったら見られるようにしておく。

○見本を書き、なぞらせる。

ワンポイントアドバイス

☆うまくできたことを教師も子どもといっしょに喜びましょう。それが子どもへの勇気づけになります。

立ち歩く

考えられる要因



今学習している課題がわからない、興味がない、見通しがもてないなどじっと座っているのが苦痛になる

☆子どもの実態

授業のとちゅうで、ふらっと立って前に出て黒板に落書きしたり、教室を出て行ってしまったりする。

☆目標

動きたい気持ちをしんぼうして、少しでも座っていられる時間を長くする。

使った支援①「時間を見せる」



タイムタイマーを使って、「5分間だけ、友だちの話を聞いたらおしまいだよ。」と待つ時間を視覚的に見えるようにしてやることで、自分の席から離れたい衝動を抑えることができた。

ワンポイントアドバイス

☆タイムタイマーは短い時間（5～10分）で有効。長い場合は効果がない。

課題を最後までやり通せない

考えられる要因

- ・自分のやりたいことが優先して切り替えが効かない。

☆子どもの実態

・計算問題や漢字練習など、根気のいる学習は気持ちが続き、とちゅうで投げ出してしまふ

☆目標

自分なりの目標を設定し、その目標については最後までやりきることができるようにする。

使った支援①

・算数の練習問題の場合、「ここまでならでき」というところを自分で選択させてやらせると、最後までやれた。

- 早く終わった子が「ミニ先生」になって、教え合いをする。
- みとおしを持たせる（ゴールを示す）
- 本人にどこまでするか決めさせて、そこまではやりきらせる。
- できるところまで行い、休み時間などを使い、個別に取り組む時間をつくり、個別に指導する。

ワンポイントアドバイス

☆子どもはすきまの時間ができてしまうと集中が切れます。「空白の時間を作らない」ことを意識しましょう